

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	メルパルク株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	東京都港区芝公園2-5-20
工場等の名称	ホテルメルパルク名古屋
工場等の所在地	名古屋市東区葵3-16-16
業種	宿泊業、飲食サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	ホテル・旅館
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	ホテル、結婚式場、宴会会、レストラン
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年7月1日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 管理グループ事務所
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-937-3586		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社では省エネの対策に対して、電力・ガス・水などの消費節約を図るべくムダを省く努力を進め、今後は更に積極的に推進していく方針である。

事業所内での省エネに出来る限りあらゆるものにチャレンジして全員で対策を積極的に行い、温室効果ガスの削減に計画通り実施していく。

1. 事業所での省エネの取組

温暖化対策室を中心に対策を率先して行い、全社員に普及するように努力し、更に促進する。

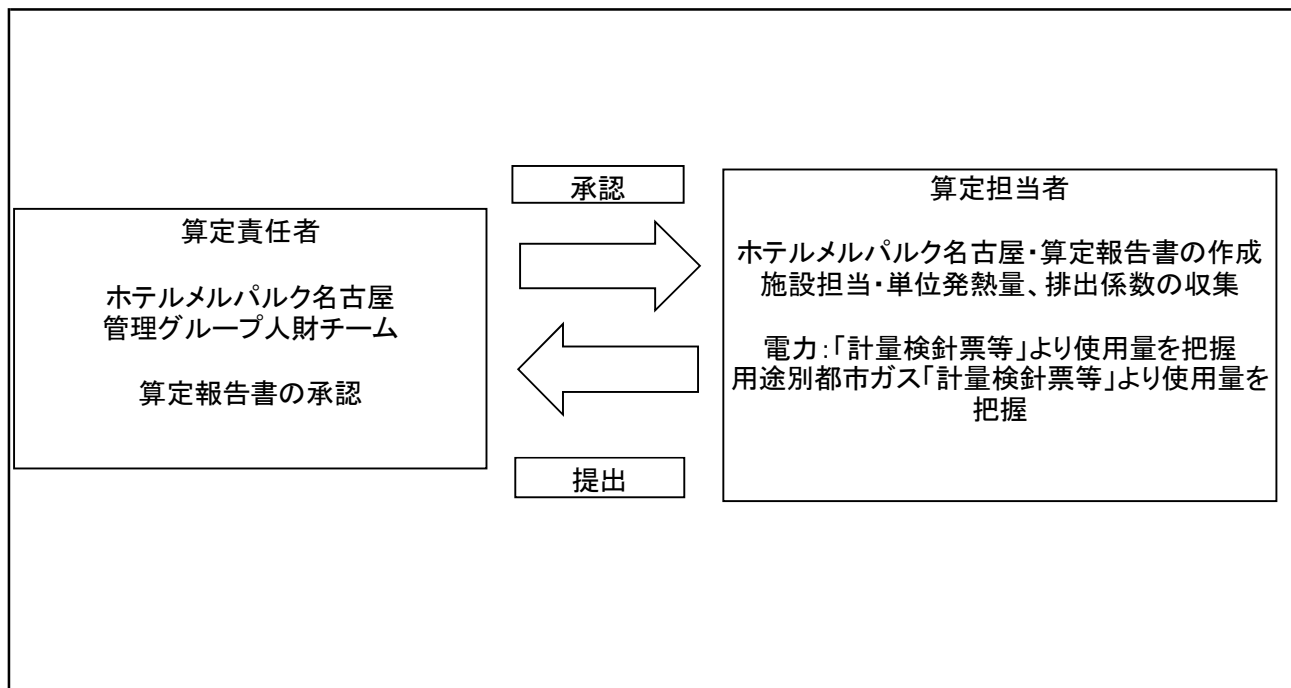
また、設備に係る対策は中長期修繕計画を基に建物オーナーに相談をして段階的に実施していく。

照明ランプ類を消費電力の低い、LED照明器具・LED電球に計画的に交換を実施した。

2. 社員に対する環境意識向上のための啓発活動

2021年度は社員に対する意識向上に努めた結果（使用電力見える化等）、全社員がムダな電気の消灯等に積極的となり効果が出た。更なる啓発活動を実践していく。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,815	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,815	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	1,815	t-CO ₂	1,813	t-CO ₂	0.1	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

運用による削減では今以上の削減は困難な状況となっており、今後の削減は高効率機器への切替等となるが、機器類の更新には建物所有者である日本郵政不動産株式会社との調整が必要なため早期の実施が困難である。また、令和2年1月以降のコロナ禍によるお客様の減少により令和3年度実績排出量も低下し今後、コロナウイルス感染状況が回復しお客様の増加が見込まれるため、排出量はかなり増加する見込。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
一般管理/光熱水使用量等の把握	・光熱水使用量の把握のため、計測、記録、分析 ・使用量の見える化	
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	・設備の運転時間、管理部門の温度（冷房28℃、暖房20℃）、外気導入量の管理 ・中間期等は外気導入を積極的に行い空調機等運転時間の削減に努める（外気冷房）	
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	・南向き窓のカーテン締切、日射負荷を削減 ・冷温水ポンプ及び空調機は負荷変動に対応してインバータ制御で変流量化	
省エネルギー・省資源の推進/照明	・夜間社員用自動販売機の照明清灯 ・催事に合わせ点灯、不要箇所の消灯 ・白熱系照明を順次LEDに更新	令和6年度までに白熱系照明200灯をLED照明に更新予定
省エネルギー・省資源の推進/その他	・エレベータ、エスカレータの運転管理、催事に合わせ運転、不要箇所の運転停止	

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

水資源の有効活用及び廃棄物の排出抑制 ・トイレ擬音装置、節水こまの活用・雨水を利用中水の活用 ・両面コピー、裏紙利用による紙使用量の削減
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

定時退社に努める。
